

涌泉寺だより

「若有聞法者 無一不成佛」

(法を聞く者は一人として成仏しない者は無い)

(方便品第二)

前号のお便りでもご案内させていただいておりますが、11月に九州へ団体参拝させていただきました。九州の日蓮宗は京都とは歴史の違いがありますが、規模の大きい寺院も多くあります。今回は総代さんの企画で、私も一度お参りさせていただきたかった、日蓮聖人銅像教会と「西身延」本佛寺様が入っており楽しみに参加させていただきました。

共に規模の大きな九州を代表する寺院で、建立にあたり同じように布教と特に慰霊に重要視して建てられていることが印象に残っています。

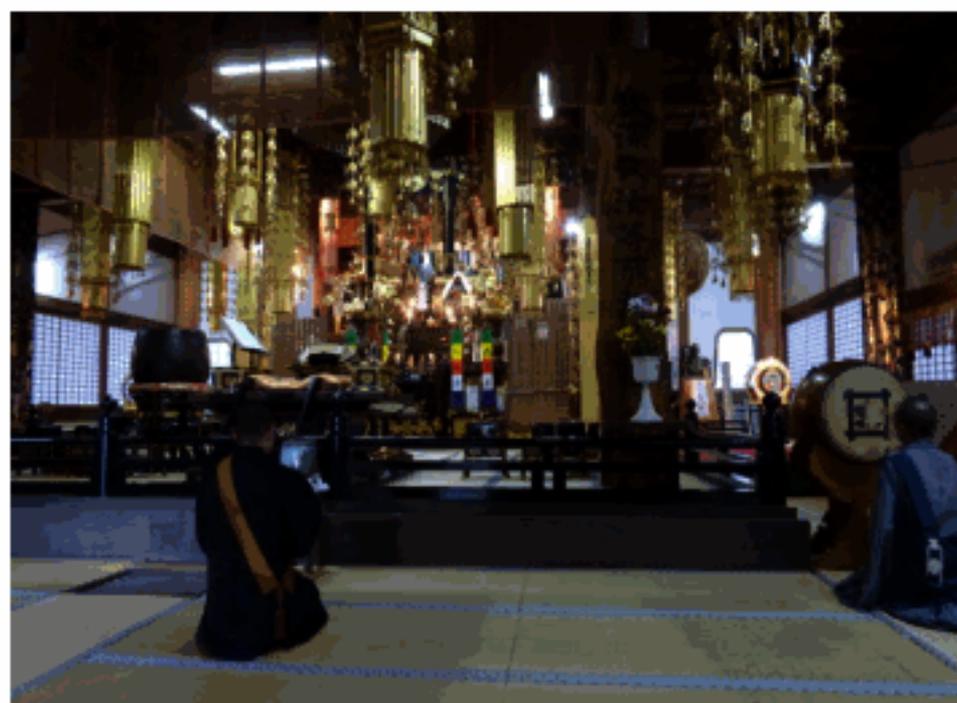
本佛寺の周りは柿の木畑であり民家はありません。元は古戦場で、シャレコウベがゴロゴロしているところに建立されたようです。一般の方は絶対に家を建てない場所です。

なぜ、そのような場所に建てたかという一つには、

本佛寺の佐野住職は、「多くの供養を受けることが出来ないでいる靈魂を成佛させることによって、その成佛させた靈魂が、私たちを守ってくれます。」とお話しされておりました。靈に憑りつかれることもあるのにとっても勇気があると思いましたし、お経を沢山あげ、法華經の力を本当に信じられていたからこそできるのだと思いました。

憶測にはなりますが、お盆の送り火の意味には一つ、日像上人は「妙」を書かれ無縁の靈魂の供養をなされたのかもしれないと感じました。ですから大きな字で多くの靈魂を成佛させ、その力を得て京都中に法華信仰を広めることが出来たのではないかと思います。

全国各地で法華信仰を弘めるため先人がご苦労されていることや供養の大切さを再確認し身の引き締まる思いでした。



本佛寺本堂

七面宮お社破損その後

7月2日の夜に七面宮お社に木が倒れ掛かっているのを発見してより、京都市みどり政策推進室さんに早急に補償についての回答をお願いしていますが、回答が出ませんので今も傾いたままになっています。十月一日には公園緑地課長さんがわざわざご挨拶に来ていただきましたが、特に解決には進みません。行政の制度上大変難しいようです。

古い建物ですので、そもそもしっかり建っていたのかと疑問があります。一度はみどり政策推進室さんと有識者の方の調査で涌泉寺より提出した見積りを概ね認めましょう、というような話がありました。しかし、みどり政策推進室の方が建設局幹部の方にその話をするると幹部の方からは古い建物だから余計に倒れただけではないか、京都市の責任はそれほどないのでは、といわれ補償の金額の決定には来年一月末までかかるようです。こちらとしては古い大事な建物ですのでしっかり補償していただきたいですし、京都市さんの木を倒してこちらに迷惑をかけたているはずなのに、随分だなと思ってしまうです。

今回のことで京都市さんの指定する歴史的風土特別保存地区とは、どうあるべきなのかとも感じます。

京都日蓮宗においては、京都法華信仰発祥の地ですので、しっかりと復旧できるように努力していきます。

先の様に11月14日・15日で団体参拝をしています。

14日は新幹線のさくらに乗車し博多まで行き、小雨模様でしたが日蓮聖人銅像教会・本佛寺様を参拝しました。日蓮聖人の銅像の下には一代記があり、日蓮聖人の部分が沢山の参拝者に撫でられ、ツルツルになっています。本佛寺様では日蓮聖人のご真骨にもお参りしました。右の肩の部分だそうです。お参りの方のためにエスカラーターが設置されていて規模の違いに驚きです。また、沢山のお弟子さんがとても親しく、見えなくなるまで大きく手を振って見送ってくれたのも印象的でした。夜は「せいもん払い」というお店で会食し、美味しい料理とお酒で親睦を深めました。

15日は観光で、特に大宰府天満宮は七五三参りで、とても賑わっていました。本佛寺様によると元は参拝者も少ない神社であったのですが、日蓮宗の木剣での祈禱で現在のようになら参拝者も増え有名になったそうです。素晴らしき法華経の経力です。

2日間住職家族も参加させていただきました。子ども達が大変ご迷惑をお掛けしましたが、大変ありがたい経験で感謝しています。

